

この辺まではサイクリストの姿を見かける (溝ノ口の十字路)

に出会う。不動の前の畠も田も緑がしたたるようなのに、左手の高い所へいく新道は埃をふきつけて南風が走る。こんな風景は私の子供の頃の世田谷にあった風景だ。私なんかこんな所でふいと昔を思い出す。馬絹はこの先だが、妻と矢上川のほとりに自転車を投げ出して、同じように緑の田と埃を吹きつける道を眺たことがある。私は子供の頃を想い、妻は何を想ったかは知らぬが、夫婦が別々なことを考えてこの川辺にある。知るとき、そのはかなさをしみじみと想ったことで

ある。大山街道はそんな所で私の心の中に喰い込んでいく体臭をもっているのだ。

バスの停留所に大塚という所がある。ここで道は二つに分れるが、左へ入る方が本当だ。馬絹と一緒にいるから安心してハンドルを左へ切り給え。昔の溝ノ口連隊の前を通るが、心なしか草深く、深緑の季節には、「つわものどもが夢のあと」と同じ感慨にふけるのは私より古い世代の者の感傷だろうか。宮崎中学校も、そうした兵營の一つだが、グラウンドの先で一旦はとまろう。丘のつらなりが右手に長く、いまなら熱っぽい光をもつた空と、その丘陵のなすゆるやかな線と、そして眼の下を白く横に走る新道と、どれを見ても季節の臭いが息苦しい程感ずるに違いない。

下作延から僅の距離で馬絹へ下りてしまうので、そしてまた登り坂が目の前にあるので、走りなれた人なら、大山街道はこれからいくつも登つたり降りたりせねばならぬことに気づくであろう。貴方の直感に誤りはない。

都筑の丘陵は、相模湾に注ぐ境川まで続く。そしてこの丘陵は、うっかりすると見落すような小さな川によつて、いくつもの谷地が刻まれている。それは皺の

安心です

パンクのマスコット

地球パッチ

NO3 実物ピース大



マルニ工業株式会社

大阪市生野区生野田島町2/1 TEL(03)4019

ようでもあり、皺の底に川が流れ、そして部落がある。馬絹から先へいくと、とくにそんな感じがする。それが又走るものにとつては楽しい。というのは、ところどころで大山街道は表情を変えていくからだ。悪い路面に驚かず、目のまえの登り坂に嫌気をささず、もつと先まで走り給え。

例えば有馬へ降りれば気がつくだろう。バスの停留所に有馬と書いてあるの、有馬だと思いが、左側に山が押し寄せ、行手には小さな山があり、右手が畠である。そして正面の小さな山には、農家がへばりついている。それは山里の風景だ。一寸自分のいる所に錯覚を覚える

のもこんな所である。だが一寸登ると、川崎市と横浜市の境界標が目に入る。一寸がっかりするが、境界線から真直に下る坂は、サイクリストが嫌いな地形ではない。下りれば石川であり、すぐ荏田である。この当りは昔の都筑郡であるが、今でも都筑の名が残っているのが驚いた。というのは、この荏田には床屋もあり、自転車屋もあり、雑貨屋も二軒ある。この雑貨屋に青い旗が立っていた。都筑の商店連合の旗なのだ。おそらく都筑の丘陵のどこかに散らばっている店同志が図つて会を作つたのであるが、その会の名に都筑という二字をつけているのも、今は消えた都筑という名を惜しむ

人がいることを知って嬉しくなった。都

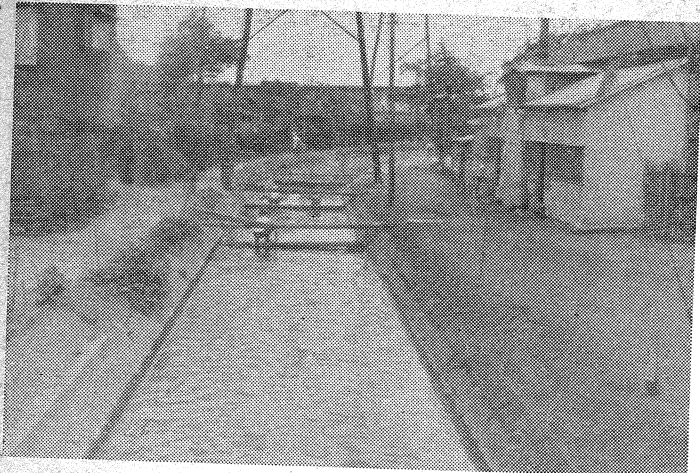
だと私は勝手にきめている。大山街道を走るたびに荏田で休む習慣があるためか

しさに目

な眺望だろう、文豪徳富蘇峯から河藤を眼下に

人がいることを知って嬉しくなった。都筑という名は、私の古い地図に出てくる。昭和九年版の五万分の一の地図は、私の歩いたり走ったりした道すじが、赤鉛筆や、青鉛筆や、或る時は黒い鉛筆で書いてあり、境界線を探して引いた線などがゴチャゴチャになつてはいるが、その中に「都筑」という郡名を表記する二字がはつきり出ている。この二字に執着を持つのは旅人の感傷かと思つたが、あながちそうでもなさそうだ。

荏田はこの丘陵の中の一つのポイント



この辺からは田園風景が濃くなってくる (二ヶ領用水)

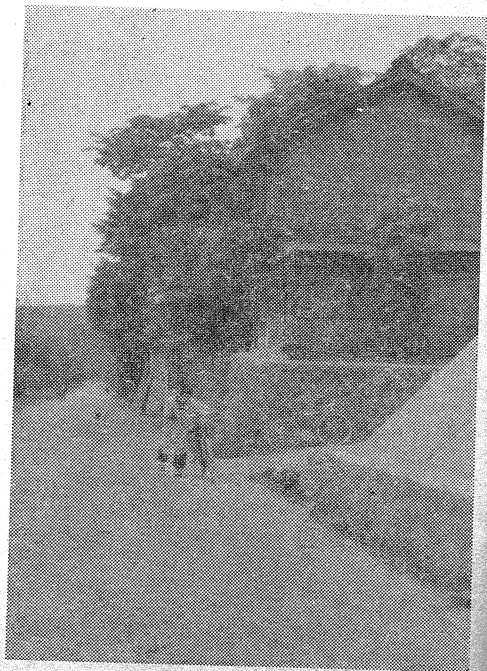
だとは勝手にきめていた。大山街道を走るたびに荏田で休む習慣があるためかも知れない。ヤビツ峠へいくのに若い人を十一人連れてここを通つたときにも休んだ。バスの終点なので、待合室がある。待合室にたむろして若いサイクリストがムシヤムシヤと勝手にほほばつてゐる姿は、バスを待つお客を驚かしたことであつた。或る時は二人してボツンと十字路に立つて休み、或る時は床屋から聞えてくるラジオで天気予報を聞こうと思つて、寒々とした店先で立つて休んだ。

そして或る時は雑貨屋の店先で婆さんと話をした。

今ではどこもそうであるように、荏田でもアイスクリームを

に、荏田でもアイスクリームを売る白い冷蔵庫が何でも屋の店先にある。十円と二十円があるが、二十円のを買って喰べた。カラはどこへ置けばいいかと婆さんに聞いたら、そこらへ捨てればいいという、そんな所は至極大雑把である。その次にいつた時ジユースをくれといつたら、三十五円のジユースを出して、「高い方をもつてきました」といつていた。みたらキリンのジユースだつた。私の風味のどこに高級品を買うという標示があるかわからぬが、二十円のアイスクリームを買つた実績によるらしいと考え、思わ

この街道らしい風景がある (石川附近)



ず吹き出したくなつた。荏田からの登りは緩いが長い。そして人家がなくなる。この道すじは夜更など気味が悪い。今井氏とナイトランで飯山温泉へいくのに夜更にここを通つたことがあるが、沈むに早い新月が心細く、そして鋭い姿を右手の山かげにかけていた。何となく不気味でならない。灯影というものが無い。雨の近づくような生温かい風が通りすぎる。男二人でも心細いのはこのこと、竹の下から恩田へ抜ける道だ。なまじ新月でも月があつたから気味が悪かつたらしく、その次に真暗闇のときレデイサイクリストとここを帰りぎわに通り返るときは、それ程でもなかつた。想うに、頼られているという張り故もあるらしい。そういえば男二人で

はお互に相手を頼りもしないだらうし、頼られるという意識は更にあるべく皆がない。これが昼たと、一寸カメラを向けたくなる道だから面白い。数人が走つてくる。それをカーブで待ち受けてファイナダーをのぞく。絵になるような気がするのだ。そんな気持で同行の数人を写したこともある。

ある時、それは冬だつたと思つたが、珍しくサイクリストを見た。クラブの石井氏だつた。一緒にこの道を行つたが、それはこの道で予期せぬ人に会つた唯一の想い出である。彼はレチナを首から下げた。カラーをものにするつもりだそうである。だが大山街道はカラーの対象になる風景は秋になるととくに少ない。紅葉は鶴岡までの間に一本しかない。そ

止場はフレジデント級の大型船
くてつまらない。県庁前あたり

交通

ン道路をつくつた吉田茂も偉い男だと私は信じている。東神奈川を過ぎて鶴見川

家がへばりついている。それは山里の風景だ。一寸自分のいる所に錯覚を覚える

志が図つて会を作つたのであるが、その会の名に都筑という二字をつけているのも、今は消えた都筑という名を惜しむ